

第6回安曇野赤十字病院建設支援検討委員会 会議概要

- 1 委員会名 安曇野赤十字病院建設支援検討委員会
- 2 日 時 平成 19 年 5 月 15 日(火) 午後 1 時 30 分～3 時 00 分
- 3 会 場 安曇野赤十字病院 講堂
- 4 出席者 荻原委員、西山委員、青木委員、丸山委員、米倉委員、等々力委員、
腰原委員、曾根原委員、岩渕委員、遠藤委員、小林委員、藤森委員
- 5 市側出席者 土肥企画財政部長、堀田健康福祉部長、二木企画政策課長、高橋健康推進課長
猿田課長補佐、川崎健康推進係長、黒岩主査、中山主事、上條担当
日赤出席者 青山事務部長、笠原企画課長、
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 人 記者 3 人
- 8 会議概要作成年月日 平成 19 年 5 月 22 日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開 会 (丸山副会長)
- (2) 会長挨拶 (西山会長)
- (3) 改選委員の委嘱
- (4) 協 議 (委 員)
- 平成 19 年度建設支援検討委員会事業日程等について
病院改築事業に係る経過について
要望書への対応について
その他について
- (5) 閉 会 (丸山副会長)

2 説明概要、質疑応答

(1) 平成 19 年度建設支援検討委員会事業日程等について(事務局説明)

- ・本年度の取り組みの基本的なスタンスとしては、市民から愛される病院づくりについて、「市民病院的な役割」といった視点から研究をしていきたい。
- ・18 年度に提出をした要望書が、新しい病院づくりにどのように反映されているのか、そのことを中心に検討頂きたい。
- ・今後は、ソフト部分が重要になってくる。他の病院の視察を行いながら、「市民から愛される安曇野赤十字病院」としての役割、機能等について議論を頂きたい。

委 員：特になし。

(2) 病院改築事業に係る経過について(安曇野赤十字病院説明)

- ・4 月 21 日に「地域医療フォーラム」を開催した。地域医療に関する課題を共有する機会となった。この模様はあづみ野テレビで 6 月 9 日・10 日に放映する。
- ・今後のスケジュールとしては、5 月中には部署とのヒアリングを終了し、7 月には詳細設計を決め、ここから実施設計に入っていきたい。翌年 2 月には実施設計を終了する。
- ・3 月に日赤本社の理事会にて承認を得、施工業者の選定に取り掛かる。
- ・スケジュールでは 4 月着工とあるが、免震構造認定、建築確認申請等の法改正により、手続きに時間が掛かることが予想され、6 月着工にずれ込む可能性がある。
- ・工事については 19 ヶ月を要し、移転工事を 2 ヶ月間取り、平成 22 年 1 月には新しい病院での診療が出来る計画で進めていく。その後、2 期工事として 8 ヶ月を掛け、既存建物の解体、駐車場整備、外構工事を行い 22 年 9 月には完成予定である。
- ・現在、プロポーザルの技術提案書をたたき台に基本設計に取り組んでいる。要望書、市民アンケートの結果を取り入れ、多岐に亘って検討をしている。
- ・来院者用、業務用 6 台の E V を中央へ移動することで専用 E V を廃止し、建設コストの削減を検討している。
- ・外来と診療部門については、効率的な動線配置と心休まる診療環境の確保に重点を置いて検討をしている。

- ・病棟部門はゆとりある病室、寛げる空間の確保に重点を置いている。
- ・玄関と日赤プラザについては、圧迫感のないゆとりある空間として、また、災害時での傷病者の受入場所として、コンパクトに造る方向で検討している。
- ・ヘリポートは騒音による周辺住民への環境、建築費、維持管理費等の点から造らない方向。
- ・展望レストランも 400 m²は大き過ぎる。療養環境の改善に有効活用する方が良いとして、外来に近い 2 階部分に軽食喫茶を置くことで検討している。
- ・これらの議論から、1 階と 2 階の配置が大きく変更となっている。
- ・十分な駐車場を確保するため、また、エネルギー効率を考え、機械室を 7 階の展望レストラン跡に設け、機械棟を駐車場として利用することで 450 台以上のスペースを確保することが可能になる。
- ・患者動線と業務動線を効率的に機能させることから、E V の位置を多少中央へ移動し、外来部門を南側へ持っていく。

委 員： スケジュールの中で土地取得、家屋補償の問題がない。可能な範囲でその辺の説明をお願いしたい。

日 赤： 周辺用地を求める計画はある。現在、不動産鑑定調査を依頼し、移転を伴う家屋については補償調査もしている。これから具体的な額の提示、代替地の提示をしていきたい。また、税務署や県との協議により収用対象事業の認定を取り付けていきたい。

会 長： 6 月には始められるような形で努力をして頂きたい。

副会長： 対象物件は何件あるのか。

日 赤： 建物の移転をお願いする方が 3 件、用地の提供をお願いしたい方が 5 件ある。

副会長： およそどの辺か。

日 赤： 3 件の移転は南側の道路に面した方々。既に建物の物件調査、間取り等の調査もさせて頂いている。代替地の件については、基本的には提供について協力を頂くことで返事を頂いている。

委 員： ボーリング調査をしていたが、場所と深さはどの位か。また、大きく部門を動かした理由は厚生労働省の病院に対する方向性によるものか。

日 赤： ボーリング調査は全部で 3 ケ所。現在の豊岳荘の北東の角と建物の西側中央辺りで、深さは 8 m。もう 1 ケ所は豊岳荘南側の当院の駐車場の中で、深さは 16m である。部門を動かしたことは、確かにこれからの病院改革の動向を踏まえている。大きく変わった点は、「患者を歩かせずにスタッフが歩こう」というスタンスである。効率よく検査等を済ませ、受付から会計まで分かりやすい動線を考えたことでかなり移動があった。

(3) 要望書への対応について（安曇野赤十字病院説明）

○補足説明（施設・設備・機能・医療機器の整備について）

- ・各受付は、オープンカウンターを計画している。
- ・待合室の中待合 3 ケ所とは外来をブロックで分け、その間の待合場所を指す。受付を済ませ順番が来るまでは総合待合で待ち、診察時間が近づいた患者から中待合に誘導される。
- ・診察室はすべてドアのある個室とする。
- ・ベビーシートは男子用トイレにも設置する予定。検尿用トイレは専用トイレとすることから一般の方のトイレ利用はない。

委 員： 医療体制の充実で、6 月から常勤医師が 1 名増となることは感謝している。転職を希望する医師の医療機関への橋渡しをする人材紹介会社「リンクスタッフ」という機関が出来た。中国と提携をして日本語の出来る医師を派遣するような方向が採られている。実際岩手県では実績を上げていていると聞く。産婦人科の志望が少ない中で医師不足を解消する一つの方策として考えて頂ければと思う。

委 員： 医療体制の充実の中で病診連携について、日赤で検査を受けた結果をインターネットで画像を伝送するようなことは考えていないのか。

日 赤： 医療連携については、電子カルテを導入する計画でいる。その一連の中では考えている。ただし、現在ではセキュリティーを考慮すると完璧ではないと思っている。Web 版の安全性の確保されたパッケージのシステムの開発を待っている。

会 長： 院内保育所はどうなったのか。

日 赤： 女性の医師、看護師が勤めやすい環境を整備する点では非常に大きな役割、効果があると期待をしている。今回の新病院建設に際しては施設は別になるが、院内保育所の検討は比較的若い職員の中で行われている。条件が整えば長野県が所有している土地・建物について、その費用を考えていきたい。

(4) その他について(事務局説明)

- ・次回は7月を予定している。特に重要な検討委員会であると認識している。全員の出席をお願いしたい。

副会長： 7月には、スケジュールの中で日赤の建設委員会が予定されているが。

事務局： 調整する。